

NIKAKAI DESIGNERS GENERAL INCORPORATED ASSOCIATION



No.73

NIKA DESIGN REPORT

一般社団法人 二科会デザイン部 本部事務局
レポート編集部

2024年11月1日発行

第108回二科展・デザイン部授賞式

日時：令和6年9月7日(土)・12時-14時

会場：国立新美術館講堂

二科展デザイン部授賞式を9月7日(土)12時より挙行了しました。

学校法人 佐賀コンピュータ専門学校校長・理事長 堤 保裕様、国際アート&デザイン専門学校 山田直美様、学校法人穴吹学園専門学校 穴吹デザインカレッジ校長 森川和哉様、公益社団法人二科会理事長 生方純一様、事務局長 埴 珠世様、一般社団法人二科会写真部理事長 片岡順一様、事務局長 槇島昇様を来賓にお迎えいたしました。



学校法人 佐賀コンピュータ専門学校校長・理事長
堤 保裕様



国際アート&デザイン専門学校
山田直美様



学校法人穴吹学園専門学校 穴吹デザインカレッジ校長
森川和哉様



公益社団法人二科会理事長
生方純一様



一般社団法人二科会写真部理事長
片岡順一様



ごあいさつ

「落紙雲煙」

二科会デザイン部 理事長

河地知木

108 回二科展デザイン部にご応募くださいました皆様、大変有り難うございました。準入選、入選、入賞された皆様方、日頃の研鑽の成果です、お目出度うございます。二科会デザイン部は美の四分野（絵画・彫刻・デザイン・写真）で構成される総合美術展、二科展の一部門です。絵画・彫刻部は公益社団法人二科会、写真部は一般社団法人二科会 写真部、デザイン部も一般社団法人二科会デザイン部と称し、それぞれ独立した法人で二科会の旗のもと活動をしています。当デザイン部は、第 36 回展（昭和 26 年）かの東郷青児先生の発案、賛同者の皆様方により、社会性と芸術性の融和、美の領域の拡大を掲げ商業美術部門（昭和 57 年デザイン部に改称）として設立・参画し現在に至っています。デザイン部も二科会の趣旨を踏え [多様化する現代を認識し、自由な発想と、創造性、豊かな感性を求め、ビジュアルに表現する] ことを指標としています。全出品者の制作の自由を擁護し、個性を尊重し、流派の如何は言うまでもなく新しい独自の価値の創造者に対し抜擢され待遇されることを約束します。二科会の美に対するこれらの目標は不変の鉄則・志向であり、我々の理念です。

さて 2024 年も多くの作品が全国から出品され、国立新美術館において第 108 回二科展が 9 月 4 日から 16 日まで開催されました。

なかでも今年、108 回展の B 課題テーマ部門ではご承知のように二科展デザイン部作品応募の呼びかけ、および部のイメージポスターがテーマでした。エッと思われた方も多くおられたかと思いますが、会員会友において我々の存在を再確認し、一般出品者方々が二科デザイン部に対してどのようなイメージを抱いておられるかを探ってみたい、知りたいとの思いでのテーマ設定でした。その結果この B 課題には大変多くの作品が寄せられました。中身はイラストレイティブなもの、タイポグラフィックなもの、幾何形態のパターンによるもの、イメージ写真による表現等の作品でした。正に二科デザインの多様性の「自由な発想と、創造性、豊かな感性を求める」の証と私は思っています。作品が多く集る C 部門、D 部門に加え、A、B 部門につきましても今後ますますの関心をよせて頂き、応募出品していただければ幸いです。勢いある力作をお寄せください、お待ちしております。今年度も二科会デザイン部は 2025 年、109 回展の開催に向け鋭意準備中です。サア 取りかかりましょう！

ご紹介と、お願いをもってご挨拶といたします。

第108回二科展 B部門特別課題 審査会総評

副理事長・事業局長 渡辺亘章

第108回二科展 B部門特別課題は、二科会デザイン部の作品募集ポスター、または二科会デザイン部のイメージポスターを課題にしました。

1951年に設立された二科会デザイン部は、日本のデザインコンペティションの中で最も長い歴史を有しています。

既存の表現方法に拘らず、現代的な熱意が溢れ、自由な発想と創造力豊かな感性を大切にしたオリジナル作品を歓迎しています。

A 部門の自由テーマ・ポスター

B 部門の特別テーマ・ポスター

C 部門の自由テーマ・イラスト

D 部門のフリースタイル

という4つのカテゴリで公募しています。

第108回二科展デザイン部 B部門特別課題のキャッチコピーは

「デザインの未来を共に創ろう」

英文表記の「let's create the future of design together」

と、和文と英文の表記のどちらでも良いということにしました。



大賞を受賞した香川県の瀬尾春妃さんの作品は、自分のイメージの世界を B1サイズの画面にぶつけてきた作品で、沢山の応募作品の中でも異彩を放っていました。

特選賞の二越としみさんの作品は、テーマに対する独特の切り口で審査員を魅了しました。

二科会デザイン部への作品応募は、日本国内だけでなく、海外からの応募も増えてきました。

今回の B 部門の入選作品や受賞作品のなかには、すべて英文表記で作成されたポスターも見られました。二科会デザイン部への作品公募が、今後海外からの応募が更に増えることを願っております。

「海外の方へのメッセージ」

Established in 1951, the Nikakai Designers Association boasts the longest history of any design competition in Japan.

In recognition of the diversifying modern world, we are seeking designs for posters to solicit entries for the Nikakai Designers Association Exhibition. We welcome original works filled with contemporary enthusiasm over already established modes of expression, valuing free thinking and creatively rich sensibilities.

Category A: Free-choice assignment and poster

Category B: Special assignment

Category C: Illustration

Category D: Freestyle



第 108 回二科会デザイン部 審査会総評

審査会委員長 吉田隆至

令和 6 年 7 月 27 日 (土)～7 月 28 日 (日) の二日間で行われた。

昨年は、会員全員参加の審査会を臨んだのだが、まだまだコロナの影響で 20 数名と少なかったが今年は 43 名の審査員で行われた。出品点数は各部門共に昨年並であったが、次年度に向けて出品者増につながる対策が必須だと感じた。

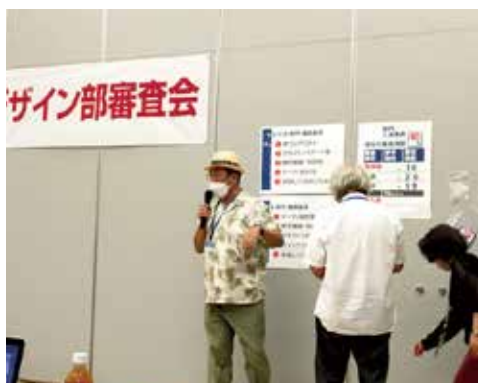
部門別で見ると、A 部門では昨年の入賞者が今年も実力を発揮して連続入賞者が大幅に増えた。大賞の伊藤さん セピア調のビジュアルでイラストも緻密で全体に緊張感を醸し出している。タイポグラフィもスッキリとしていて良い。特選の今井さん＝アップした猫を墨一色で細密に描写したイラストは、昨年の猫の群像とは違い迫力があって力強いし、レイアウトも決まっている。特選の小田さん＝繊細に構成された画面は鮮やかで独特の世界観があり好感が持てた。奨励賞の林さんと福田さんはお互いに動物をモチーフにしているがそれぞれの表現方法が対照的で好感を受けた。他では東南アジアのタイからも出品があり複数の入選を果たしてくれた事で、今後海外からの出品も期待したい。

B 部門では、例年は省庁からの課題がテーマであったが、今年は決定に至らず、「二科展デザイン部作品募集」が課題となった。大賞の瀬尾さん＝新鮮な発想のビジュアルは次に繋がる可能性を感じさせるもので、大半の審査員に賛同を得た。後で確認したところ高校生の作品ということで改めて感心した。特選の二越さん＝市街地の巨大なビルボード広告にさり気なく課題テーマを挿入された表現が少しウイットに富んでいて微笑ましい。他にも複数の高校生の入賞作品があり、次回に向けての期待が膨らんだ。

C 部門では、大賞の銭さん＝猫のモチーフを和風モダン調に仕上げられていて怪しい雰囲気が出ていて良い。特選の小松さんも猫がモチーフで擬人化された板前がリアルでユニークだ。特選の望月さん 色々な要素がギッシリ詰まった楽しい空間を表現したイラストで 2 年連続の受賞。奨励賞の樹さん 立体で細工されたイラストは精度が高く独自の世界が広がっていて良かった。他に、Mizuki さん＝吉武さんの作品は共に墨一色の作品でそれぞれの世界観があって良かった。

D 部門では、大賞の小川さんの作品＝添付された 2 点の色調の対比も良く、イラストの装飾的背景も良かった。特選の垂井さん＝軽やかなタッチと透明感のある色彩も良かった。崎山さんのパステル画は、左右に分けた空間 (空と鳥・海と魚) が表現されていて厚みを感じた。奨励賞の花谷さんの切り絵、川崎さんのカラフルで楽しいイラストも目に付いた。

全体的に見ると高校生を含め若い作家の作品が増えたのは今後の楽しみだ。来年もより良い作品が応募される事を願っております。



4



第 108 回 二科展デザイン部受賞者名簿

A 部門

- ★二科デザイン・ポスター大賞
伊藤瑞樹 [高知]
- ★特選賞
今井泰之 [福岡] 二越としみ [大阪] 小田妙子 [福岡]
- ★奨励賞
早川博唯 [兵庫] 林 まき [和歌山] 宜野座明 [大阪] 福田綾子 [福岡]

B 部門

- ★特別テーマ・ポスター大賞
瀬尾春妃 [香川]
- ★特選賞
二越としみ [大阪] 吉村美咲 [香川] 小川隼人 [岐阜]
- ★奨励賞
内海小夏 [香川] 仁田原寿成 [佐賀] 武下幸樹 [香川] 山田佳代 [佐賀]

C 部門

- ★二科デザイン・イラスト大賞
銭 昊煜 [福岡]
- ★特選賞
小松 凜 [東京] 望月 尚 [静岡] 曾 萍 [福岡]
- ★奨励賞
樹 琥珀 [和歌山] Mizuki the City [埼玉] 大橋由起子 [愛知] 吉武心花 [大阪]

D 部門

- ★二科デザイン・フリースタイル大賞
小川日菜 [徳島]
- ★特選賞
垂井雪嶺 [茨城] 崎山里美 [和歌山] 矢田美聡 [福岡]
- ★奨励賞
松田美歩 [山形] 花谷江津子 [大阪] 川崎 茂 [広島] ながやまてつ [東京]

会員賞

A 部門

杉本洋一 [大阪]
横木憲幸 [神奈川]
河地知木 [東京]

B 部門

渡辺亘章 [東京]
岩田 明 [愛知]

C 部門

徳永倫子 [大阪]
河野朱実 [東京]
久保俊介 [山口]

会員努力賞

古河原二葉 [愛知]
佐土嶋文香 [福岡]
横木憲幸 [神奈川]

新会員 推挙 (2名)

延時久美子 [鹿児島]
谷林めぐみ [岩手]

会友賞

A 部門

長谷川広典 [東京]
園こうじろう [福岡]

B 部門

岡崎隆一 [広島]
山野井宏宗 [徳島]

C 部門

瀬戸良香 [大阪]
ひぐちりかこ [埼玉]

D 部門

なし

新会友 推挙 (3名)

井上弘子 [大阪]
早川博唯 [兵庫]
柳田真理子 [青森]

第 108 回二科会デザイン部 ギャラリートーク

審査会委員長 吉田隆至

ギャラリートークを終えて

9月7日(土)授賞式を終えて3時から展示会場に於いて、俵川会員の声出しから始まった。参加者は延べ30数名。

A 部門からの講評で、受賞された方の制作意図を伺ったり、それぞれの入選作品で良かった点を解説して廻った。途中こういうデザイン処理をすればもう一段上の結果が出たのでは?のアドバイスをした所、興味深く耳を傾けてくれた事が良かったと思う。2年連続2部門特選受賞の二越さんとのトークは私も嬉しかった。

C 部門は、出品点数も多く表現技法や個性が一番される部門です。大賞の銭さんと特選それぞれの作品は、技術力に加え表現アイデアも優れていた。奨励賞の吉武さん=初出品で受賞されました。墨一色でコツコツと描き込んだので時間も掛かったとの事。これは努力賞モノです!笑。この部門は参加者の関心も強くより突っ込んだ意見交換が出来た。

D 部門は、奨励の川崎さん=可愛いくて独特な色使いのイラストで好感が持てた。奨励のながやまさん 現代版浮世絵風のユーモアのあるイラストで連続の受賞。

場所を変えて B 部門の部屋では、大賞の瀬尾さん=高校生とは思えない発想とバランスの取れた完成度の高い作品で参加者も納得していた。今回の課題テーマが解りやすかったのか高校生の出品も多かった。

このギャラリートークを通してデザイン部をもっと身近に感じて頂き気軽に出品して頂ける事を望んでいます。出品者とのコミュニケーションはこんな機会にしか得られないので貴重な体験であった。感謝。



第108回 二科展 全国巡回スケジュール

- 本展覧会 会場／国立新美術館
会期／令和6年9月4日より9月16日まで
展示点数／291点（デザイン部作品）

●全国巡回展スケジュール

巡回展作品管理 ————— 横木憲幸会員

東海展	2024年10月22日～10月27日	愛知県美術館ギャラリー	岩田 052-264-4636
大阪展	2024年10月31日～11月10日	尼崎市総合文化センター	田野 06-4950-4130
京都展	2024年11月26日～12月1日	京都市京セラ美術館	下口 080-8511-7631
富山展	2024年12月4日～12月9日	富山市民プラザ	東 099-228-0093
鹿児島展	2025年3月2日～3月9日	鹿児島県歴史・美術センター黎明館	延時 099-228-0093
福岡展	2025年3月18日～3月23日	福岡市美術館	小路 0952-29-2636

チャリティー作品協力会員

河地 知木 横木 憲幸 河野 朱実 俵川 智行
依田けいこ 岩田 明 古河原二葉 小路 久男
松河 哲男 吉田 隆至 吉田 勉 松本 泰明

ご協力ありがとうございました。

各地区事務局・各支部事務所

●二科会デザイン本部事務局

〒840-0032 佐賀県佐賀市末広 2 丁目 11-10

☎ 080-3370-8018 E-mail info@nika-design.net

●東北・北海道地区事務局

〒010-0917 秋田市泉中央 4-22-11

☎ 018-823-2805 (小笠原 京子)

●関東地区事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-4-8-502

☎ 080-5199-2003 (渡辺 亘章)

●中部地区事務局

〒462-0844 愛知県名古屋市中区清水 2 丁目 6-11・602 クリエイティブハウスグロウ

☎ 052-325-8233 (岩田 明)

・東海支部 〒498-0021 愛知県弥富市鯉浦町上巳 343

☎ 090-6587-9824 FAX 0567-67-1988 (佐藤 達美)

●北陸地区事務局

〒933-0942 富山県高岡市市川原町 13-45

☎ 090-9767-6526 (東 俊介)

●関西地区事務局

〒660-0083 兵庫県尼崎市道意町 1 - 49 (有) パン・クリエイティブスタジオ

☎ 080-1452-5460 FAX 06-4950-4131 (田野 勝) KY0162@nifty.com

・大阪支部 〒633-0076 奈良県桜井市大泉 442

☎ 090-9058-9455 FAX 0744-45-3848 (吉田 隆至)

・京都支部 〒601-1331 京都府京都市伏見区醍醐南端山町 15-47

☎ 075-632-8187 (下口 智弘)

●中国地区事務局

〒739-1201 広島県安芸高田市向原町坂 240-12

☎ 090-2800-8603 (田川 幸義)

・山口支部 〒745-0801 山口県周南市久米 3131-10

☎ 090-7894-8354 (久保 俊介)

●四国地区事務局

〒799-0405 愛媛県四国中央市三島中央 5 丁目 8-56 株式会社 NAD 内

☎ 0896-74-8305 (続木 満豊) E-mail nika.shikoku@gmail.com

・香川支部 〒762-0025 香川県坂出市川津町 4068-1

☎ 0877-45-9734 FAX 0877-56-2408 (出淵 光一)

・徳島支部 〒779-3112 徳島県徳島市国府町芝原寺地 23

☎ 088-642-3153 FAX 088-642-3153 (坂野 美恵子)

・高知支部 〒780-0981 高知県高知市一ツ橋町 1-135

☎ 080-5669-0665 (坂本 阿綺子)

●九州地区事務局

〒840-0032 佐賀県佐賀市末広 2-11-10 Design Studio SHOW 内

☎ 0952-29-2636 FAX 0952-29-2675 (小路 久男) show@ori.bbq.jp

・福岡支部 〒827-0003 福岡県田川郡川崎町大字川崎 2590

☎ 0947-72-5522 FAX 0947-72-3757 (佐土嶋 文香) ayakas1@mac.com

・佐賀支部 〒840-0806 佐賀県佐賀市神園 5-11-9

☎ 0952-30-5572 (川原 幸治) jiuko@star.saganet.ne.jp

・大分支部 〒879-1506 大分県速見郡日出町 555-45

☎ 0977-72-8789 FAX 0977-73-0873 (宇野 美保子)

・熊本支部 〒860-0846 熊本県熊本市中央区城東町 4-7 グランガーデン熊本 1015 号

☎ 080-5211-5838 (石倉 舞り) mari_design_@me.com

・鹿児島支部 〒891-1204 鹿児島県鹿児島市花野光力丘 2-39-7

☎ 099-228-0093 FAX 099-228-0093 (延時 秀一) thyme@ymt.bbq.jp



雑感／第108回展審査会を終えて

二科会デザイン部 副理事長 田野勝

私がこの二科展デザイン部に初出品してから、おおよそ半世紀になる。その頃、景気に乗じて街中には広告物が溢れ、ポスターといえば、アイデアを駆使したユニークで感性豊かな商業ポスターが、あちこちに貼り巡らされていた時代である。石を投げれば三人に一人はデザイナーの卵に当たると言われた時代。その頃の二科展デザイン部といえば、当時の日宣美とは一線を画し、公的な美術館で展示するため一切宣伝目的の作品は規制されていて出品出来なかったし、会社の実名やロゴマークは当然使用は許されなかった（現在に至る）。そのこともあって二科会デザイン部の方向性は、一般的な宣伝広告から二科展の一部門の位置づけとして、アート指向の強いイラスト中心の傾向が主流になったと思われる。現在ではパソコン作品もさることながら、手描きによる多様な表現方法で出品され、年々その作品群は微妙に変化して来ている。緻密で時間を費やした作品が多く見られるようになった。つまりアイデアのあるシンプルでメッセージ性に富んだ本来のポスターの持つ役割から遊離して、二科展デザイン部独自の世界感をつくり出しており、このグラフィックアートの作品群が将来どのような位置づけで推移して行くのか、私には判断は出来ない。このところAIの出現による新たな難問も出ている。AIを利用しての出品作品が今回も数点見受けられ、公募展はあくまでもオリジナリティであることを認識していただき、常に独自の可能性を追求し挑戦して行くことが、この二科展デザイン部の将来を占うものとなり、ひいては展覧会の質的向上にも繋がる。

第109回展に向けて、より一層のご尽力を強く願い期待したい。